

## 開催報告

# 第8回 家活グランプリ 結果発表!



J Aを核とした協同活動活性化や、生活・地域・文化の振興に向けて、J A職員が実践している「家の光三誌」の活用方を募集する本グランプリ。今回も全国から地域の特色を生かした様々なアイデアが寄せられました。

北川太一(摂南大学 教授・審査委員長)、佐久間幸子(家の光専門講師)、木下春雄(家の光協会 代表理事専務)の各審査委員(敬称略)による厳正な審査の結果、入選者が決定しました。

## 審査結果

## 最優秀賞

## 私たちの教科書(テキスト)は『家の光』

島根県 J Aしまね 横山文訓さん

## 優秀賞

## 家活が繋ぐ! 安心して暮らせる豊かな地域社会

茨城県 J A水戸 田山絵美さん

## 『家の光』が結ぶご縁

島根県 J Aしまね 長島敬子さん

## 佳作

## 声を聴くことを心がけて!!

愛知県 J Aあいち中央 岩井ゆかりさん

## 生活担当ではないからこそできる家活

福井県 J A福井県 笹原久美子さん

## J Aの礎『家の光』

鹿児島県 J A南さつま 西尾あかねさん

## ■ 組織基盤の強化を「家活」で実現

審査委員長 北川太一

J Aの教育文化活動は、『家の光』をはじめとする「家の光三誌」を積極的に活用しながら、J A女性組織の活動はもちろん、くらしの活動や支店での協同活動等を展開することによって、組合員と役職員、地域の人たちとのつながりをつくることをめざしています。このことは、今、J Aグループにとって重要な取り組み課題である「組織基盤の強化」につながると考えられます。第8回となる



審査委員のみなさん。左から佐久間審査委員、北川審査委員長、木下審査委員

家活グランプリですが、コロナ禍の規制が緩和されるなかで、対面の活動を復活して創意工夫を凝らし、ときには他の部署とも連携しながら取り組む実践事例が多く寄せられました。3名の審査委員により、①組織・地域の特性を踏まえ、創意工夫して「家の光三誌」の記事を活用しているか、②教育文化活動や記事活用の効果と広がりがみられるか、③豊かな表現力を持って活動内容が表されているかを評価の基準として、応募があった14作品の審査がおこなわれました。厳正な審査の結果、各賞を決定しましたが、いずれも甲乙つけがたい力作ぞろいで、惜しくも今回の選には漏れた作品からも多くのヒントが得られました。こうした実践事例にも学びながら、家活の輪がますます広がるとともに、より多くの応募がなされることを願っています。

入選作品は、家の光協会のウェブサイト (<https://www.ienohikari.net/>) で公開いたします。また、最優秀賞受賞作品は『家の光』9月号に掲載予定です。令和6年度もキラリと光るアイデアを募集します。詳細は、今後上記サイトでご案内する予定です。